

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092700026		
法人名	特定非営利活動法人 なかまと		
事業所名	グループホーム てととと和合		
所在地	長野県東筑摩郡麻績村日4769-1		
自己評価作成日	平成23年1月13日	評価結果市町村受理日	平成23年5月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070800335&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成23年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中で、季節感を感じ家庭的な雰囲気を大切に生活できるようにしている。生活の自然な流れの中で個人の持っている力を大切に、少人数だからこそ出来る一人ひとりへの細やかな配慮をすることで、安心して落ち着いた生活が出来るように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本人の原風景である里山の趣きが漂う事業所周辺の景色であり、居ながらにして心地よい環境となっている。麻績川による水害の不安、安全面に欠ける橋と負の部分もあるが、隣接する公民館・民家・田畑・竹林と、これまで馴染んできた暮らしが継続出来る条件が整っている。利用者一人ひとりに「安心した暮らし」が出来るよう、「尊厳の保持」や「支え合いの関係」を理念に掲げて、その実現に取り組んでいる。職員には、資質向上のための研修への積極的参加を促し、意見やアイデアを聞くための場を作り、連携や意思疎通を大切に、気軽に会話の出来るコミュニケーション作りを努めている。利用者には地域の中で安心して暮らしていけるよう交流の機会を多くし、戸外に出る楽しみを作っている。共用空間では途切れることのない楽しく気軽な会話、一人ひとりの尊厳に配慮した声掛けを心掛け、利用者職員で作り出す暮らしが出来ている。夜間2名の職員配置、毎月の担当者からの家庭通信、何気ない利用者のつぶやきの記録、何時でも利用できる入浴と利用者を主役にした介護が出来ている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲げ、理念の意味を話し合い共有できるように実践につなげているようにしている。	尊厳の保持・支え合いの関係・家庭的な温かさ・地域との交流を4つの柱とし、安心できる暮らしの支援を理念として、誰にでもわかるよう玄関の入り口に掲げている。職員全員で話し合いながら、介護の現場で理念が活かされるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の生活の中で、散歩など地域の方と会話を楽しんだり、野菜をいただくなどしている。 又、地域行事にも声をかけていただき参加させていただいたり、地域の中学生との交流も行っている。	2ヶ月に1度の中学生との交流、三九郎や祭りなどの地域行事への参加、地域のボランティアの受け入れ、流しソーメンなどの事業所行事への招待など地域と繋がりながら暮らすことに努めている。近隣住民と散歩時に挨拶したり、お裾分けを頂いたり、許可を得て竹の子を採ったりと地域の中に溶け込みながら生活している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての勉強会を行い、認知症についての理解や支援方法を一緒に学ぶなどしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動の様子を報告し、サービス向上に繋げる事が出来るように、ご意見や要望をいただいている。	行政・地域・ご家族の参加の下、現状・課題・評価・事故等、透明性のある議題提出により議事運営が行われている。委員からの質疑もあり、双方向的な会議となっている。	開催回数が少ないので、年6回は開催すると共に、欠席者には会議内容を報告することを期待したい。又、構成委員に任期の長い地域の民生委員や交流している学校の関係者を加えることを望みます。公表は法令で規定されているので、事業所を訪れる方に閲覧できる体制を整えることが望ましい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事や防災訓練などには参加いただき、ホームの様子を知っていただくと共に、困難事例は相談、協力いただいている。 又更新認定調査などは生活の様子を伝え連携をはかっている。	運営推進会議や行事の参加、年1回の行政との会議、更新認定調査時の接触などにより、事業所の現状を理解して頂き、行政との連携は密になっている。包括支援センターに困難事例を相談したり、スプリンクラーの設置などの課題も提起するなど、事業所だけで課題を抱えるのではなく、行政の支援、協力を得ながら事業運営をしている。	

外部評価結果(グループホームてととと和合)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には夜間、職員の目の届かない時以外は施錠せず、出入りが自由に出来るようにしている。利用者が一人で外出しようとしているときは、安全面に配慮しながら、さりげなく見守るように支援している。	身体拘束することなく抑圧感のない暮らしを支援していくという基本姿勢を持っており、玄関の施錠はなく、外に出たがる利用者には見守りや連携プレーを重視して、寄り添う介護を行っている。拘束することによって利用者の精神的ダメージを増すより、拘束しないことにより生ずるリスクをいかに小さくするかを介護を心掛けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	日頃からの言葉遣い、態度など職員同士が関心を持ち注意し合えるように心がけている。又、職員の疲労やストレスは虐待へとつながる可能性もある為、職員の状態を把握するように努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ケースがなく、今後の課題として研修をしていくように検討が必要とされている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定などの際には、わかりやすく説明するようにし、理解・納得いただけるようにしているが、不明な点があった場合にはいつでも説明が行えるように配慮している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や来訪時などにご意見を伺うなどしている。 利用者との日々の会話を大切に希望や思いを受け止め、日々の運営に反映させるようにしている。	運営推進会議や年1回の家族会、面会時を活用してご家族の思いや意向を把握するよう取り組んでいる。利用者の日頃の様子は毎月、担当者より家族通信で報告している。利用者には日々の会話を大切に利用者がふと漏らす、つぶやきを受け止めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、ミーティング等に参加し、意見を集約して運営に活かしている。又随時事務所を訪問し、利用者・家族からも意見をいただいている。	月2回行うミーティングや状況に応じて行う個別面談を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。研修参加への積極的働きかけや他の事業所の訪問など職員の気付きやアイデアを引き出す工夫もしている。管理者、職員同士、共に良好なコミュニケーションが取れている。	

外部評価結果(グループホームてととと和合)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に協議の場を設け、職場改善の整備に努めている。又、国の処遇改善事業は率先して導入した。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、積極的に受けるように進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の機会を通じて、交流・情報交換の場を作るようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接を大切にすると共に、日常会話の中で不安・要望などが話せるような関係作りを進めていく。又会話の中で不安や要望などのサインがあったときは見逃さず対応が出来るように心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームで生活していく上で、ご家族の不安、ご本人に対する思いを把握し、要望やご意見に耳を傾け、心配や不安があったらいつでもお話しいただけるような関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、ホームとご本人など信頼関係を築くように努力し、本人の気持ちにそって支援できるように努めている。		

外部評価結果(グループホームてとと和合)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いをみだし、その思いを大切に穏やかな気持ちで安心して暮らせるように、お互いが支えあえるような生活を心がけている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々の利用者の生活状況や出来事をお知らせする「家族通信」を発行。時にはその様子に写真を添えお知らせするなど、様子をわかっていただけのようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆・お正月などの帰省や来訪をご家族にお願いしたり、外出時自分の住んでいた地域へ立ち寄ったり、買い物に出かけ地域の人たちと交流がはかれるように心がけている。	盆や正月帰省の依頼、外出時に自宅へ寄ったり、馴染んだ地域の方との交流、知人や友人が訪ねて来るなど、これまでの関係が途切れないよう支援している。知人やご家族との電話や手紙の支援も行っている。知人や友人は時の経過と共に遠退くことが多いので、行事への招待など、さらなる工夫が今後求められる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も利用者と一緒に食事やお茶をすることで利用者同士の関係を把握し、皆が一緒に過ごす時間を作ることで友人関係を深める努力をしている。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動しても様子を伺うなどし、移動時には生活状況などの情報提供を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や、意図的な会話の中で本人の希望や思いが把握できるように努めると共に、それが困難な場合にはご家族に確認するなど検討している。	センター方式を活用した基本情報を土台にして、生活歴や価値観などを把握し、一人ひとりの思いや意向を汲み取ろうと努めている。又、日々の会話などからも、どんな暮らしを望んでいるのかを把握するよう取り組んでいる。廊下や居室などで、一対一になった時に話すつづきやきや願いを大切に受け止めて、職員間で話し合い、それらが実現出来るよう努めている。	

外部評価結果(グループホームてととと和合)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式により、それぞれの暮らし・生活環境をご家族に記入していただくなど、経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握するようにし、変化のあった場合には、個人記録に記入しミーティングや申し送りをし、職員間の情報の共有に努めている。又、利用者の発した言葉や行動を個人記録にし状況把握できるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を全員が把握すると共に、ケアのあり方など職員間で話し合ったり、家族や関係者とも話し合いながら介護計画につなげている。	計画作成担当者がセンター方式を活用した様式で課題分析し、カンファレンスを通じて介護計画を作成している。計画の全職員への共有化を図ると共に、利用者の担当者がその月の目標を決めてサービスを提供している。月2回のミーティング時に利用者の状況の変化に応じて、モニタリング、評価を行い、現状に即した計画になるよう取り組んでいる。	利用者の担当制はあるが、介護計画作成から評価までの関わりが薄く、モニタリング・評価は行われているが様式化が不十分である。課題分析から評価までの様式を見直し、担当者の関わりを多くすると共に、見易く、書き易く、記録に重複のないような様式となるよう検討することを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に、本人が発した言葉や行動を記録し、朝・夕の申し送り、月2回のミーティングなどで確認しあい、情報を共有できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない通院には対処し、状況を伝えている。 又、遠方よりお越しの方には、ご希望により一緒に食事を食べていただくなど、配慮している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さんに来ていただいたり、地域で活動しているサークルなどに訪問をお願いしている。地域の中学生との定期的な交流を行い、食材など一緒に買い物に行くなどし、暮らしの中で楽しむことが出来るように支援している。		

外部評価結果(グループホームてとと和合)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家庭で受診していたかかりつけ医を主治医とし、信頼関係を崩さないようにしている。又通院時日頃の様子を伝え、変化のあったときは相談するようにしている。	利用者のご家族の希望するかかりつけ医となっており、主として職員が受診の付き添いを行っている。看護職員の配置により医療連携の体制があり、口腔ケアにも力を入れて、医療面での安心を得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状況を全員が把握し、共有すると共に、日々の体調の変化を見逃さないようにして、変化に気がついたときには看護師に相談し医療に繋がれるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況を把握するようにし、病院との連携を取り、情報交換・相談し退院に向けての支援をしている。又、状況が改善されれば1日も早くホームに戻れるように支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いを持ち、ホームとして出来ることを十分に説明するなど、話し合いながら支援に取り組むよう考慮している。	重度化や終末期の対応は文書化に向けて鋭意検討中である。ご家族の意向に沿うことを大切にしているが、医療面での依存度が大きくなると事業所での対応は困難である。事業所として出来ること、出来ないことを説明して、ご家族の理解を得るよう話し合っている。	重度化や終末期の対応は確実に直面する課題であるので、相互の思い違いが生じないよう、事業所で精一杯出来ること、困難であることを精査し、文書化して、十分な説明を行って、ご家族との同意を取り交わすことを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時においては、応急手当の方法などを学び実践できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、うち1回は地域住民の皆さんにも参加いただき避難・誘導方法や消火訓練などを行い協力いただけるようお願いしている。	年2回、水害も想定して消防署の協力の下、通報・避難誘導訓練を行い、そのうち1回は地域住民の協力を得ている。自動通報装置の設置、応急手当法の学習、スプリンクラーは設置義務に該当するか関係機関と検討し、又、地域住民への災害時の広報についても行政と研究中であり、災害に対する認識は充分である。	

外部評価結果(グループホームてととと和合)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの大切さを日頃から話し合い、一人ひとりの思いを大切にし、尊敬の念を忘れずに、さりげない援助が出来るように心がけている。	一人ひとりの尊厳を保持することを理念に掲げ、ミーティングなどを通じて利用者に対して年長者としての敬意を払うことを共有認識としている。日頃の言動のチェックは職員同士で行いながら、さりげない声掛けをして、誇りやプライバシーに配慮するよう取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己発言があまりない方も、会話の中などでそれぞれの思いや希望が言っていたるように声かけするなどしたり、日頃の行動などから察知するように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごした活か、希望にそって支援している	基本的な流れは決まっているが、その時々でどのように過ごしていくかを考えている。 又、個々の思いを大切にし対応できるように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自分で決定し更衣しているが、自己決定が難しい方には、一緒に選ぶなど本人の気持ちを大切に支援するように心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来ることを把握し、それぞれが持っている力を発揮できるようにし、張り合いや自信につながるように支援し、職員も一緒に行い会話することで楽しみながら準備や食事が出来るようにしている。	利用者の出来る範囲で調理の下準備から食器拭きまで職員と一緒にやっている。週2回、利用者を伴って買い出しに出掛けて購入した食材や、畑で採れた物やお裾分けの野菜を活用して利用者の希望を取り入れながら職員が献立を作成している。鍋物など季節感のある食事を取り入れている。食事中はテレビよりBGMを主にして楽しい会話を心掛けるなど食が進むような工夫もしている。個々の利用者の食事ペースに合わせて、ゆったりとした食事時間となっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や好み、食べ方などを把握し、水分量の少ない方には好みの飲み物などを提供したり、ゼリーなどし水分が取れるように工夫している。		

外部評価結果(グループホームてとと和合)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを職員が理解し、一人ひとりの状態に応じたケアを毎食後行うようにしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの様子を観察し、サインを見逃さないようにして、見守り・声かけし、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援している。	リハビリパンツや尿取りパットを活用しているが、トイレを利用したの排泄を介護の基本としている。一人ひとりの様子やサインも見逃さず、排泄パターンを把握して、トイレ誘導や声掛けをして排泄の自立に向けた取り組みをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録により個々のパターンを理解するようにし、自立されている方も、さりげない声かけにより排泄の有無を確認するなど状況を把握できるようにし、日頃の生活の中で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まった時間になってしまうが、入浴日は毎日あるので、希望に応じ入浴できる。入浴を嫌がる方については対応を工夫するなどし、ゆっくりと入浴できるように対応している。	1人週3～4回、1日3人、午前又は午後、希望に応じて入浴を行っている。重度者には2人に対応し、風呂嫌いの利用者には見守りや声掛けの工夫をして入浴出来るよう取り組んでいる。重度化する利用者の入浴対応は今後の検討課題である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促すようにし、生活のリズムを整えるように支援。夜間眠れない方には、温かい飲み物を提供したりするなどし、状況に応じた支援を心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員の1日の服薬状況が一目でわかるようにしてあり、個々の内服内容はいつでも確認できるように個人の薬箱に管理されている。薬の内容に変更があったときは、状態の変化がないか経過観察に心がけるようにしている。		

外部評価結果(グループホームてととと和合)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で個々の力が発揮できるように支援し、感謝の思いを言葉にして伝えることで、喜びや張り合いにつながるように支援している。年1回は日帰り旅行を計画したり、季節の行事を行うなどし、楽しみごとがあるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外へ出て、体調に応じ散歩したり買い物に出かけたりしている。今年度は春に善光寺、秋にぶどう狩りを企画。それぞれ利用者さんたちの思いを伺っての旅行だった。	事業所周辺は自然豊かな里山の趣があり、日常的な散策には最適な場所である。眼前には麻績川や橋があり、付き添いなしでは不安もあるが、戸外に出るだけで気分転換や五感の刺激を得ることが出来る。花見・紅葉狩り・善光寺行き・ブドウ狩りなど遠出の楽しみも取り入れている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額にて自己管理されている方もあるが、ほとんどが職員がお金は管理しているため個々に支払うことは無い。日帰り旅行時などは、お預かりしているお金の中からお土産代金とし、個々の力に応じてお金を使えるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・友人・家族への電話は希望があればいつでもかけられるようになっている。手紙はご自分で書けない方には職員が気持ちを代筆するなどし、やり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から見える景色や、季節に応じた食材などに季節を感じ、音・匂い・光から生活感を感じられるように配慮している。	居間兼食堂は採光や窓からの景色が良く、主要道路から離れて騒音もなく、四季青々とした竹林が眺められ、里山のゆったりとした風景の中での暮らしとなっている。食堂兼居間に続くサンルームは四季を通じて有効活用されている。壁には手作りカレンダーや中学生との交流の際の写真などが飾られ、話題の提供をしている。雛祭り・七夕・お盆・月見など利用者がこれまで季節の移り変わりと共にやってきた行事を大切に馴染んだ暮らしが継続出来るよう取り組んでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア・台所は一体的になっているため、全体が見渡しやすいが、常に見られているという圧迫感も感じられる。そのためついたてを使ったり、イスを置くなどし自由に座れる場所を作るようにしている。		

外部評価結果(グループホームてととと和合)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが安心して生活出来るように家族と相談し、使い慣れたものを持ってきていただいたり、家族の写真を居室に貼るなどし、居心地よく過ごせるように工夫している。	ベッド・床頭台・クローゼットは事業所で設置した物であり、それ以外の物は利用者ごと家族が馴染みの物を持ち込んでいます。ナツメロが好きな利用者はレコードプレーヤーを置いて聞いたり、馴染んだリクライニングの椅子があったり、壁に思い出の写真を貼ったり、それぞれの方が思い出の部屋作りをしている。冷暖房完備で快適空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、個人名の名札を貼ったり、トイレは使い慣れた言葉で表示するなど、出来るだけ自立した生活がおくれるように工夫し、個々の行動を理解し安全面にも配慮している。		